

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 千 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140 - 9 - 145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ え て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
一 時 移 転 先 169-0072 東 京 都 新 宿 区 大 久 保 1-7-18
電 話 03 (3202) 0546, FAX03 (3207) 3918
URL http://uccj.org
発 行 人 長 崎 哲 夫
編 集 主 筆 渡 邊 義 彦
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し

東北教区
放射能問題支援対策室

「いずみ」

この世界に生きる子どもたちの命を守る取り組み

東北教区副議長・放射能問題支援対策室「いずみ」室長 保 科 隆



上＝甲状腺検査（「エマオ」内診察室）
下＝保養プログラム（沖縄県「西原マリナパーク」内の浜辺）

発足2年半を目前にして

東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」は、2013年5月に行われた第68回教区総会決議に基づき同年10月に発足した。その後の2年と少しの間の活動が国内外の教会と多くの方々の支援と祈りに支えられて続けられている。心から感謝である。

「いずみ」の活動は、1名の室長と1名の顧問、そして室長も含めた5名の運営委員と4名の専従スタッフ、さらに数名のボランティアによってなされている。甲状腺検査においても、また保養プログラムにおいてもボランティアの助けを得ている。

現在の活動は、1名の室長と1名の顧問、そして室長も含めた5名の運営委員と4名の専従スタッフ、さらに数名のボランティアによってなされている。甲状腺検査においても、また保養プログラムにおいてもボランティアの助けを得ている。

「いずみ」の活動は、1名の室長と1名の顧問、そして室長も含めた5名の運営委員と4名の専従スタッフ、さらに数名のボランティアによってなされている。甲状腺検査においても、また保養プログラムにおいてもボランティアの助けを得ている。

1000人超の子どもに検査実施

「甲状腺の検査」について記す。第1回の検査は2013年12月であった。そして2016年1月末に第24回の検査が実施された。すでに1000名を超える子どもたちが検査を受けた。

最近毎月1回の検査が確実に実施されている。福島原発事故当初に18歳以下だった子どもの中で現在宮城県に住んでいる人を中心に検査を実施してきた。宮城県でも最初は仙台市から始めた。甲状腺のエコー検査をするための器械は借りて行った。しばらくレンタル料を払っていたので

もなされた。放射能の問題を主題にした講演会については、その後何人かの講師によりすでに5回行われている。また、大阪教区から派遣してもらった山崎知行医師（大阪教区・愛隣教会員）による健康相談会は、福島県を中心にした教会付属の幼稚園や保育園の子どもたちの保護者たちに対するケアとして大切な働きを担ってきた。「いずみ」の発足当初は毎月来てもらっていた。福島県、会津地区の若松栄町教会にある会津放射能情報センターとの協力関係は、山崎医師の派遣を考えると忘れられることは出来ない。

日本基督教団《事務局・出版局・年金局》引越しのお知らせ

日本キリスト教会館は2月末日で耐震工事を終了します。それに伴い、日本基督教団事務局・出版局・年金局は一時移転先から、下記の日程で日本キリスト教会館へ戻ります。

◆ 移転移動日程 ◆

2016 年 3 月 11 日 (金) ～ 3 月 13 日 (日)

- ◆ 11 日 (金) は通常業務は出来ません。
 - ◆ 14 日 (月) からは通常業務となりますが、引越し直後で何かとご迷惑をお掛けすることがございますこと、予めご了承ください。
- ※郵便物等は3月14日(月)以降、下記へお送りください。電話・FAX の変更はありません。

〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

日本キリスト教会館

＊日本基督教団事務局 3F

＊日本基督教団出版局 4F

＊日本基督教団年金局 3F (年金局は5Fから3Fに移動します)

日本基督教団 総幹事 長崎哲夫

検査を行った。「いずみ」の活動報告会のために日本各地に運営委員が出かけている。その時に質問が出される。どうして宮城県だけでしているのか。福島県ではなぜ行わないか。もちろん福島県に出かけないと決めているわけではない。すでに福島県の南部にある川谷教会の保育園の子どもたちの甲状腺検査を単独で実施した。園長からの希望があったからである。そのために2回訪問した。また、宮城県で行っている理由であるが、宮城県は県の行政が放射能の心配はないという判断で甲状腺の検査は必要ないと考えているからである。しかし、それはあくまでも県の立場であって市町村のレベルでは必ずしもそうではない。例えば大河原町などでは町の協力を得て甲状腺検査を実施した。具体的には「いずみ」の検査案内を町の広報に載せてもらったのである。申し込みがすぐに殺到した。大河原町だけではなく。白石市でもそうである。大河原町では検査会場も町

の施設を貸してもらった。町長も検査会場に見学に来た。申し込み者が多く1日の検査で約100名の子どもが検査を受けた。通常は50名程度が限度である。甲状腺検査については課題もある。エコー検査を交差費のみのボランティアで担当してくれる医師が不足していることである。今までは毎月1度の検査を行うことが出来たのは、エコー検査をするのでできる医師に恵まれていたからである。しかし、今年の4月からは、これまで検査を担当してもらってきた医師の転任もあり、今後の検査の今まで通りの実施については不安材料もある。どなたかエコー検査の出来る医師の方を紹介してもらえないだろうか。

毎回の検査結果については、A一、A二、B、Cの4段階でなされる。嚢胞と結節の有無無し、大ききによって判定がなされる。ちなみに甲状腺がんになる可能性について言えば、BでもCでもないと聞く。

「保養プログラム」について記す。短期、長期の二つのプログラムがある。特に長期のプログラムについては、夏は北海道、春は沖縄で5泊6日の日程で行ってきた。北海教区と沖縄教区の大きな協力を得ている。また、今年3月の第9回の長期保養プログラムは九州教区の奄美大島で初めて行う予定である。

※ 東日本大震災から、そして福島の原発事故からもう5年を迎える。「いずみ」の活動は、神が創造した。またその摂理をもつて導いてきた。この世界に生きる子どもたちの命を守る取り組みとして始まった。生命倫理的な課題である。原発事故の大きさに比べてあまりにも小さなつながりであり取り組みではある。しかし、私としては、このような働きを今後も続けていきたいと願っている。全国の教会に「いずみ」の働きを続けるための支援のお願いを送っている。どうかよろしく願いたい。祈りを持って支えてもらいたい。

(仙台東一番丁教会牧師)



2階にある
礼拝堂に上る
階段、踊り場
の壁に教会学
校のクリスマス
メッセージ
スペース

礼拝堂に上る階段、踊り場の壁に教会学校のクリスマスメッセージのスペース。写真が数葉、年を越して貼ってある。階段を上る者たちの目に留まる。エレベーターもあるのだが、礼拝を献げるころには年を重ねても自分の足で上りたいという者も少なくない。踊り場で一息、写真に見入る。▼今年は登場人物たちの衣装を新調した。長年にわたり使ってきた衣装もだいぶ疲れてきていた。羊飼いなどは労働着としてそれと味わいだったが、さすがに東からの博士たちのものは立派になった。新調するに裁縫の得意な教会員に協力してもらった。上手な人がいるものだ。すばらしい出来映えだった。自ら縫った衣装を着ている子供たちが告げてくれるクリスマスの喜びを、これら奉仕者たちも特別な思いで聞いたことだろう。▼年末年始、慌ただしく過ぎて早2月。クリスマスの暖かさはしばらく前のことのように思えるが、階段の写真を見る度に、その暖かさを思い起こす。御子がわたしたち罪人のために赤子として生まれてくださったことを知るがゆえの暖かさである。写真は、受難節の始まりまで貼られていた。御子が降誕された喜びは、キリストの負われた受難に直接結びついている。年を越してもなお、喜びが深められてゆくのは本当に幸いだと思う。

▼救済対策本部会議▲

被災教会支援コンサート計画を承認

1月22日、教団救済対策本部第10回（通算第44回）会議を、教団会議室にて開催した。

1月22日現在、全国募金が19億27万3317円（キリスト教学校教育同盟加盟校よりの「こひつじキャンプ」開催のためのクリスマス献金96万9462円を含む。昨年3月の全国募金終了後の献金額は1398万6403円）、海外からの献金は4億479万1619円（昨年4月からの献金額は1853万7094円）であることが報告された。

状況、EMSからの支援金受領、第21回こひつじキャンプ（国内）・第5回こひつじキャンプ（台湾）開催、ハートフル釜石クリスマス会開催、被災地支援顕彰委員会、被災教会支援チャリティ・コンサート開催等の報告があった。また、救済対策本部会計報告がなされた。

続いて奥羽教区から、被災教会の近況報告、一関教会関係施設（保育園）新築工事進捗状況、江刺教会礼拝堂建築計画（施工業者見積検討）等の報告がなされた。

東北教区からは、「東北教区東日本大震災救済対策を続けるための募金A・B」

趣意書發送、東北教区被災者支援センターエマオ関係（ボランティア状況、会計監査実施など）、放射能問題支援対策室「いずみ」関係（甲狀腺検査実施、親子保養プログラム計画など）、小高伝道所でのクリスマス礼拝開催等の報告、および、東北教区東日本大震災救済特別会計報告がなされた。

関東教区からは、水戸中野教会の建築工事進捗状況等の報告がなされた。

また、「国際青年会議 in 京都」（2017年3月）開催計画、東日本大震災救済対策事業全記録刊行委員会開催等の報告がなされた。

審議においては、被災地支援顕彰委員会、被災教会支援チャリティコンサート開催計画承認、神奈川教区主催短期保養リフレッシュキャンプ支援決定、エマオ石巻2016年度人事体制検討、担当幹事の超過勤務への対応等を扱った。

（雲然俊美報）

▼教師検定委員会▲

正・補73名の春季受験資格を確認

第5回教師検定委員会が、1月25日～26日、教団会議室において、雪の影響、および葬儀のための遅刻者もあつたが、委員7名全員が出席して行われた。

聖書朗読と鷹澤匠委員長の祈禱をもって委員会は開始された。

第5回委員会は、春季教師検定試験の直前の委員会ということもあり、議題としては、2016年春季教師検定試験に関わるものが中心となった。

まず、正教師、補教師あわせて受験志願者73名の資格審査を行った。結果、全員の受験資格が確認された。受験志願者の受験費用援助についても協議され、決定した。加えて、2名の転入志願者について協議した。1名は継続中であるが、もう1名についてはこの春季教師検定試験において正

教師としての転入審査を行うことを決定し、試験科目についても検討のうえ決定した。

あわせて、教師検定規則3条6号対象者（いわゆるCコース受験志願者）の認定面接実施についても確認を行い、2名の面接希望者があることが確認された。

なお認定面接は、春季教師検定試験の面接試験終了後

に終わる。重要な議題である、レポート提出試験として課されていた説教、釈義、組織神学論文等の採点を、時間をかけ、丁寧に行った。結果については公表段階ではないが、合格点に達しなかったレポートに対しては、再提出が求められることになった。続いて筆記試験問題の作成を行った。その後、試験会場は、日本キリスト教会館が現在耐震工事中のため、この春季検定試験までは、信濃町教会が会場となる。受験者は十分な準備をもって、試験に臨んでもらいたい。

また、教師検定試験受験の手引きの改訂作業が行われ、改訂後の「教師検定試験受験の手引き」の案内を新報に掲載することを確認した。必要な方は、下記案内を確認後、申し込んでもらいたい。

（服部 修報）

▼教師委員会▲

6月開催、新任教師オリエンテーションを準備

1月25日、第5回教師委員会を開催した。議事日程、前回議事録承認、諸報告を受けた後に、主以下の協議を行った。

①新任教師オリエンテーション

すでに2016年度新任

教師オリエンテーションについては、日程が6月13～15日、会場がハートピア熱海に決定しているが、主題等について次のように決定した。

①主題は「伝道を共に担う教団の教師」とする。こ

れまでの主題「教団の教師として宣教を共に担う」を継承しながら、伝道する教団の教師のオリエンテーションとしたと願っている。

②プログラムは例年のように石橋秀雄教団議長の講

演、長崎哲夫総幹事などによる教団機構の解説などが行われるが、特別講演として塩谷直也牧師（青山学院大学）、東日本大震災の被災地から小西望牧師（東北教区議長）、牧会講話に内藤肇幸牧師（前総幹事）を迎え

ることになった。

②奥羽教区被災地教会・伝道所の教師問安

これまで東北教区（特に福島県）を問安してきたが、今回は奥羽教区と連絡をとり問安することを計画している。日程は奥羽教区とも調整が必要であるが、春以降に実施したいと願っている。

③伝道推進室夏期研修会

伝道推進室の夏期研修会

東日本大震災関連記念行事日程

- 《奥羽教区》
- ◆東日本大震災 5 年を覚えての礼拝
北西地区 3 月 21 日（月）午前 10:30 ～ 五所川原教会
北東地区 3 月 6 日（日）午後 2:00 ～ 大三沢教会
岩手地区 3 月 13 日（日）午後 2:30 ～ 下ノ橋教会・新生釜石教会・大船渡教会
秋田地区 3 月 11 日（金）午後 2:00 ～ 秋田桜教会
- 《東北教区》
- ◆東日本大震災 5 年記念礼拝
3 月 11 日（金）午後 2:30 ～ 4:00 郡山教会
- 《関東教区》
- ◆東日本大震災被災記念礼拝
3 月 11 日（金）午後 1:30 ～ アジア学院

被災教会支援
チャリティーコンサート



上＝郡山教会、備付け椅子がすべて出揃うほど盛況に
下＝千葉本町教会、子どもたちも一緒に参加して

2013年春より始まった被災地支援コンサートに続き、昨年冬から新たに被災教会支援のためのチャリティー・コンサートが始まった。主催は

2015年12月10日の郡山教会を皮切りに、コンサートは、千葉本町教会（1月22日）、アジア学院（3月9日）、横浜指路教会（3月10日）、田園調布教会（3月26日）と続

開催教会で、救済対策本部が共催する。チケットを販売し、演奏に関わる費用は本部が負担、チケット売り上げは全て被災した教会の貸付金返済のために用いられる。

2015年12月10日の郡山教会では、山口幸子さん（新日本フィル・ヴァイオリニスト）と高橋碧伊さん（ピアノ）によるデュオの演奏で、教会備え付けの椅子がほとんど全て出されるほどの盛況であった（参加者112人）。

また、千葉本町教会は、母と子向けの昼の部と一般向けの夜の部の2回開催で、大人74名・子ども19名の計93名が参加し、チケット売り上げと献金

郡山教会では、山口幸子さん（新日本フィル・ヴァイオリニスト）と高橋碧伊さん（ピアノ）によるデュオの演奏で、教会備え付けの椅子がほとんど全て出されるほどの盛況であった（参加者112人）。

また、千葉本町教会は、母と子向けの昼の部と一般向けの夜の部の2回開催で、大人74名・子ども19名の計93名が参加し、チケット売り上げと献金

を合わせて21万円が献げられた。当教会は被災教会ではないので、売り上げは被災3教区（奥羽・東北・関東）に振り分けて送られた。演奏者は西谷衣代さん（声楽・二期会会員）と木村りえ・りさんの視覚障がいの子のピアノソロであった。

この企画は、本部の活動の最終年度である2016年度に本格化する。

（飯島 信報）

▼世界宣教委員会《宣教師派遣式》▲

南米、ドイツに宣教師を派遣

1月7日、教団会議室において世界宣教委員会主催の小井沼眞樹子宣教師の派遣式が持たれた。司式は加藤誠幹事、説教は秋山徹世

1月7日、教団会議室において世界宣教委員会主催の小井沼眞樹子宣教師の派遣式が持たれた。司式は加藤誠幹事、説教は秋山徹世

1月7日、教団会議室において世界宣教委員会主催の小井沼眞樹子宣教師の派遣式が持たれた。司式は加藤誠幹事、説教は秋山徹世



左から、小井沼眞樹子、佐々木良子、知花スガ子各宣教師

ソジスト教会へ派遣されて

ソジスト教会へ派遣されて

ソジスト教会へ派遣されて

◆年金局理事会◆

資産運用保全のため対策を進める

第3回年金局理事会が1月15日、教団会議室で開催され、理事(含代理、監事、東京教区支区代表、支え運動推進委員長代理、総勢26名が出席した。資産運用に関しては以下の報告がなされた。昨年前半までは円安、株高の追い風を受け良好な運用環境で

局では、年度末に向けて運用資産の保全のための対策をさらに進めることとしていた。制度検討諮問委員会からは「教団年金のあゆみ」の試作版が示された。1987年10月発行の「年金局10年のあゆみ」の続編を作成する必要があるとの見解が

ら、制度検討諮問委員会が2011年度より着手してきたものである。日本基督教団創設時からの記録を詳細に調べ上げ、また関連する社会の動き、公的年金の動き等を盛り込んだ結果「教団年金50年のあゆみ」をたどる形となった。4年半の年月を費やし、来る3月末日付で刊行される予定である。

謝恩日献金に関しては、1月中旬までの献金額は約2670万円であると報告された。全理事・支区代表は謝恩日献金の理解と協力を得ようと、教区の信徒会、教師オリエンテーション、協議会等々機会あることに熱いアピールを重ね、未献金の教会には文書や訪問して協力をお願いしている様子が報告された。教団年金の健全な前進を祈り、半日の理事会を終えた。

15年12月6日逝去、82歳。遺族は妻・櫻井淳子(報)

15年12月6日逝去、82歳。遺族は妻・櫻井淳子(報)

15年12月6日逝去、82歳。遺族は妻・櫻井淳子(報)

15年12月6日逝去、82歳。遺族は妻・櫻井淳子(報)

15年12月6日逝去、82歳。遺族は妻・櫻井淳子(報)

◆公募◆

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

台湾基督長老教会での宣教師プログラムアライフ

事務局報

正教師登録

栗山尚典

阿部駿一郎

江田めぐみ

武井アイ子

堀川 樹

大坪哲也

益 敏

濱田真喜人

大橋 新川上真咲

仲 義之

吉新 緑

藤野美樹

東 昌吾

江口公一

鈴木諭香子

寒河江健

七里

南久が原

中標津

札幌北光

教師改姓

桑 渚

信徒伝道者異動

西福岡

伝道所所在地変更

八王子ベテル

153

23

伝道所通信先廃止

浪岡

1886 年に布教を始めたアメリカ南メソジスト監督教会（MECS）は、日本で比較的遅く布教活動をはじめたキリスト教団体ではありませんが、日本の教多くの若者の教育と精神生活に大きな影響を与えました。このような影響を与えることができたのは、祖国での安全で安心な生活を捨て、遠く離れた日本にやってきた宣教師たちの献身的な布教と教育活動によるものです。

ウォルター・ラッセル・ランパスは、布教と医療活動を行っていた彼の父親、ジェイムス・ウィリアム・ランパスとともに、1886 年に中国から日本にやってきました。その直後、ウォルター・ラッセル・ランパスは、故郷の広島で女性の教育を始めていた若き牧師砂本貞吉から宣教師派遣の要請を受け取ります。ランパス牧師を通じて話を聞いた MECS は、1887 年に当時 27 才だったナニー・ゲーンズを日本に送ることを決めます。それから 45 年、ゲーンズ先生は校長、名誉校長として、広島女学院を小さな英語私塾から広島で最初の政府公認の女性教員養成学校へと発展させるために、彼女の生涯のすべてを捧げました。戦争の一時期を除いて、広島女学院は 73 人の宣教師と密接に連携しながら、100 年以上にわたって日本における女性教育の普及に努めてきたのです。

ゲーンズ先生は日本という新しい地で新しい任務につくにあたって、興奮と共に不安を抱いていました。彼女は語っています。「私は神への信仰と信頼によって導かれ、この地に宣教師としてやってまいりました。広島でのわれわれの仕事の成功は、われわれの神への信仰と信頼によって支えられ、そしてわれわれの神への信仰こそが今試されているのです」。彼女は夜遅く広島に到着し、次の日の朝にはもう授業を始めていました。砂本牧師とランパス家の人々は 30 名の教員を志す女学生を募集しました。彼女たちには、若い女学生だけではなく、政府役人、軍人、専門職業人と結婚している女性たちも含まれていました。これが広島における女性高等教育の始まりでした。

ゲーンズ先生のこの女学校における初期の活動は、困難に直面する日々の連続でした。適切な教師を見つけること、校舎の建設、保守的な広島の人々の反キリスト教的態度など、多くの困難を乗り越えなければなりません。ゲーンズ先生は広島に到着したとき、身の回りの品を入れたトランクのほかに、ピアノを 1 台持ってきました。彼女が始めた最初の仕事のひとつは、このピアノを使って音楽教育を始めたことです。1890 年には、最



初の女学院校舎の建設が完了し、そこでの教育が始まりました。その後、政府の要請を受けてさらに幼稚園を建設しました。

しかしこの直後 2 つの悲劇に見舞われます。幼稚園の建物は 1891 年後半の台風によって大きな被害を受け、さらに女学院の本校舎が深夜の火災によって消失してしまいます。ゲーンズ先生はこれらの悲劇的な出来事にもくじけず、校舎を建て直す努力を続けるとともに、その間支援者の人々の自宅を開放してもらい、授業を続けました。ゲーンズ先生の緊急要請に応じて、MECS は校舎の再建築を直ちに了承し、1892 年には女学院の建物と幼稚園の校舎が再建されました。1898 年にはさらに小学校が建設されました。

1895 年には正式名称を広島女学校に変更し、キリスト教精神を維持しながら当時の日本の教育制度に沿った学校組織を整え、より多くの学生を集めることになります。この時期には、日本政府は若い女性の教育の重要さを認識し、ゲーンズ先生のこの学校を一つのモデルとしてみるようになります。1906 年には、女学院は高等女学校（女性の高等学校）として認可されることになり、設備などの整備拡充が必要となりました。そのころには、広島の有力者たちが広島女学院に娘たちを送るようになり、彼らによる女学院に対する認知と支援は、学校をさらに大きく発展させていきました。

1916 年にはゲーンズ先生の妹レイチェル・C. ゲーンズが広島に到着します。彼女の参加がゲーンズ先生にとって大きな支えと慰めになったことはいうまでもありません。レイチェルは、来日当時は正式な宣教師の資格を持っていませんでしたが、彼女は他の宣教師たちとともに、女学院の教育と地域での布教活動に参加しました。ゲーンズ先生は、文部省の指導によって、女学院の校舎増築が必要

宣教師からの声

番外編

ゲーンズ先生ー教師、教育者、宣教師そして広島女学院の創設者として

ロナルド・クライン

(広島女学院元教授)

になったとき、自身の資産から建築費用の全額 1 万ドルを提供しています。ゲーンズ先生と妹のレイチェルは、個人用の住宅の提供を断り、女学院の学生宿舎で生活続けることを強く希望しました。その後、女学院の学生宿舎が新しく建設された際に、その一角の東棟にゲーンズ先生と妹レイチェルのためのプライベートな部屋が設けられました。ここがゲーンズ先生が生涯最後の時を過ごした場所となりました。レイチェルは 26 歳で女学院に赴任し、姉のゲーンズ先生の死後も女学院の教育につくしました。女学院はレイチェルにとっても生涯をかけての仕事となりました。

1919 年には女学院の学生数は 700 人にまで増え、ゲーンズ先生は引退を考え始めました。ちょうどそのとき広島県と広島市は、女学院に中学校および高等学校向け英語教員の養成コースおよび音楽と家政学の教員養成コースを新設するように要請します。これは女学院が高等専門学校（現在の大学）として承認されることを意味していました。しかしそのためには新たな校舎の建設が必要になり、そのためには日本国内のみならずアメリカにおいても大規模の募金活動を行うことが必要になります。ゲーンズ先生たちは日々の地道な努力を続け、この募金活動を成功させました。

この仕事を終えて、ゲーンズ先生は女学院を後進に引き継ぐ決心をします。ランパス牧師の推薦で、後任にはステファン・A・スチュワート牧師が女学院の第二代校長として着任し、ゲーンズ先生は名誉校長となります。これによって少し時間に余裕ができたゲーンズ先生は、日本および台湾において福音伝道活動により深くかかわることになります。ゲーンズ先生はこの活動のために自動車の提供を受け、「宣教車フォード」と名づけ、これに乗っ

て西日本各地を回りました。彼女はまた YMCA の活動にも大変深くかわかり、そこで河井道、津田梅子などのキリスト教女性教育者たちと深い友情関係を築くことになります。

ゲーンズ先生は、女性教育に多大な貢献があったということで日本政府から多くの表彰を受けています。その中でも特筆すべきは、1926 年、当時の皇太子の広島訪問の際に、晩さん会に招待され、皇太子から言葉をいただいたことです。ゲーンズ先生は皇太子臨席のパーティに借り着のカウンと帽子を着用し広島女学院を代表して出席しました。このことは広島女学院に対する人々の認識と評価を大いに高めることになりました。

生涯の最後には、ゲーンズ先生は広島でもっとも愛されかつ尊敬される人間になっていました。何世代もの世代を超えた多くの教え子たちは、教員として、家庭の主婦として広島に広がっていきました。そのころゲーンズ先生は次のように書いています。「この女学院の成功ほど私にとって重要なことはありません。それは単に私が人生のすべてをつぎ込んできたからというだけでなく、女学院の教育が東洋の女性たちの発展に貢献しているからです」。

ナニー・ゲーンズ先生が 1887 年に MECS の最初の宣教師として広島に初めて着任した後、73 名の MECS の宣教師たちが彼女の後を継いで日本にやってきました。現在、広島女学院の中学・高等学校のキャンパスにはゲーンズ先生の名を冠したゲーンズ・ホールが建てられ、大学のキャンパスにはゲーンズ・チャペルが建てられています。しかし、ゲーンズ先生の本当の遺産は、21 世紀の今日においても重要な役割を果たしつつある広島女学院という教育機関そのもののなのです。

(Kyodan Newsletter より)



伊藤多恵子さん

礼拝奏楽にささげる生



元フェリス女学院オルガニスト。大阪・蒲生教会員。

1 月の教会付属幼稚園父母の会役員会の会長挨拶で、「家族が見守る中での赤ちゃん誕生」の話を書き、そうに話したのを聞いた。

昨年 12 月 18 日年長組ベージェント礼拝に出た母親は翌日自宅で赤ちゃんを産んだ。上の 2 人は病院で生まれたが、3 番目の子は自宅を出産したい、その理由は母親がベージェント礼拝に出ることを何より大事と考えたからだ。

「予定日がベージェント礼拝に近く、病院で出産したらベージェント礼拝に出れない。ベージェント礼拝に妻の気合が入っていた。だから妻の希望を聞いて自宅出産

自宅出産その理由が面白い

いろいろな役をする。この礼拝で子どもたちの成長を見た親は感動し涙を流す。保護者たちが楽しみに迎える礼拝。この礼拝を捧げた喜びの中で翌日、赤ちゃんが上の子どもたちも見つめる中で誕生し

にした」と父母の会会長が話してくれた。

幼稚園では、待降節から毎日ベージェント礼拝を重ねる生活をする。練習はしない、毎日が本番だ。役は子どもたちが自由に選び、い

た。赤ちゃんはお母さんのお腹が開いて出てきて、産まれたお腹が閉じる」と思っていた子どもたちにとって一生忘れられない経験となり、驚きと感動をもって赤ちゃん誕生の瞬間を見つめた。

父母の会会長に、この感動を教会の機関紙に書いてもらおうと原稿の依頼をした。そうしたら、自宅出産の文章ではなくてパッパについての文書だった。わたしの大好きな指揮者や演奏者の名前が沢山でてきて、興味深い文章だった。彼はフルートを吹き、頭はパッパで一杯の面白い医師だ。

(教団総会議長 石橋秀雄)

伊藤さんは、父三井勇牧師と母夏野さんの間に 4 人兄妹の長女として生まれた。幼少時は虚弱体質で引込み思案、ただピアノを弾くことが楽しみの少女だった。父は、伊藤さんのピアノ演奏をだれよりも喜び、応援した。戦後、皆食べることに精いっぱい楽器を勉強する余裕などない時代。特に、父が仕えていた銀座教会では毎日の正午礼拝、

その他の集会でオルガニストが払底しており、高校生の時には公同礼拝の奏楽を奉仕した。父が 50 歳で急逝したことは、一家にとって大きな試練となる。

伊藤義清牧師と結婚し、子どもを授けると、だれより健康的で積極的な女性に変貌した。母校フェリス女学院のオルガニストとなり、約 30 年間、中高、短大、大学すべてカワイイ記念講堂の礼拝の奏楽を担当した。忘れられないのは卒業生からの手紙と言う。「礼拝は難しく退屈でしたが、先生のオルガンの音は心に響きました。今は教会のオルガニストです」。日曜日には、牧師である父、義父、夫、息子

の仕える礼拝の伴奏者として奉仕し続けてきた。「奏楽は祈りつつ讚美、感謝、の信仰告白です」と伊藤さんは語る。

昨夏には、中学生の頃からオルガンを教えてきた大学生の愛弟子と共に演奏会も開催した。現在、所属している蒲生教会の祈りと運転奉仕者の協力によって、被災地の磐城教会へ遣わされて 5 年が経つ。当初は町に津波の爪痕も残り、教会員も涙を流していた。この 5 年間に伊藤さん自身が骨折や大病を経験するも、そのたびに復活して教会を沸かせた。励ましに行くつもりが、心熱くされ、癒されて「帰宅する」と伊藤さんは語る。